

いわき明星大学

「学修行動調査 2016」調査報告書

教務委員会

目次

平成 28 年度学修行動調査について～報告～	1
学修行動調査から見た科学技術学部 of 学生に関する一考察	3
大学における学習状況について（科学技術学部）	
設問 2 (1)	5
設問 2 (2)	8
設問 2 (3)	11
設問 2 (4)	14
設問 2 (3) バブルグラフ	18
平成 28 年度 学修行動調査(人文学部)	
大設問 2 「大学における学修状況について」 の分析	19
大学における学習状況について（人文学部）	
設問 2 (1)	21
設問 2 (2)	24
設問 2 (3)	27
設問 2 (4)	30
設問 2 (3) バブルグラフ	34
2016 年度 学修行動調査結果に対する考察：教養学部	35
大学における学習状況について（教養学部）	
設問 2 (1)	37
設問 2 (2)	40
設問 2 (3)	43
設問 2 (4)	46
設問 2 (3) バブルグラフ	50
いわき明星大学「学修行動調査 2016」教養学部と薬学部の比較	51
大学における学習状況について（薬学部）	
設問 2 (1)	54
設問 2 (2)	57
設問 2 (3)	60
設問 2 (4)	63

設問 2 (3) バブルグラフ	67
---------------------------	----

いわき明星大学「学修行動調査 2016」－全学部－

大学に入学する前や高校時代のことについて（1 年生のみ）

設問 1 (1)	68
設問 1 (2)	68
設問 1 (3)	68
設問 1 (4)	68

大学における学習状況について

設問 2 (1)	71
設問 2 (2)	74
設問 2 (3)	77
設問 2 (4)	80

大学の学びに関する満足度について

設問 3 (1)	84
設問 3 (2)	86

英語の学習状況について

設問 4 (1)	88
設問 4 (2)	90
設問 4 (3)	90
設問 4 (4)	91

平成 29 年 3 月 14 日

平成 28 年度学修行動調査について
～報告～

教務委員会
委員長 大内和子

教務委員会では、本学アセスメント・ポリシーに基づく学生調査の一環として、昨年度に引き続き下記のように第 2 回学修行動調査を実施した。

調査対象：

科学技術学部および人文学部 3・4 年生、薬学部 1・4・6 年生、教養学部 1 年生

調査項目：

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて
2. 大学における学修状況について
3. 大学の学びに関する満足度について
4. 英語の学修状況について

回答方法：manab@を利用

実施期間：平成 28 年 7 月 25 日～9 月 30 日

平均回答率：52%

今回の調査は方法・内容ともに基本的には第 1 回調査（平成 27 年 7 月～9 月）を踏襲しているが、平成 28 年 1 月に学長より示された「学生調査の実施に関する方針」における学修行動調査の位置づけ（注）を踏まえ、より学生の「学びの実態の把握」にフォーカスした調査とすべく、以下のような変更を加えた。

1. 学修行動の推移をより明確に把握するために、調査対象学年を新入生と上級生に絞った。
2. 調査項目 1. と 3. に含まれる質問のうち、内容が学生生活に関わっており学生満足度調査とも重複しているものを削除した。
3. 調査項目 1. については、入学時に確認すれば十分であることから、1 年生のみの回答とした。

調査の集計結果は本報告の末尾に掲載した。得られた結果を「学士課程教育の改善」に役立てていくには多面的・継続的な解析作業が必要であり、教務委員会もその役割の一端を担っていることは言うまでもない。そこで、このたび手始めとして、4つの調査項目のうち、端的に学修の実態を尋ねた調査項目2.（授業での学修経験、授業内外における学修行動、正課内外の活動に費やす時間、入学後の知識・能力の変化についての質問からなる）に対する回答に注目し、これを学部ごとに解析することにより、各学部生の特色や学部ごとの問題の所在を明らかにする試みを行った。その結果を以下に掲載する。考察は、学部独自の課題の抽出から、学部間の比較に基づく他学部への提言に及んでいる。ご一読いただき、各学部での教育改善の一助としていただければ幸いである。

（注）「（学修行動調査は）学生の主体的な学修時間を実質的に増加させ、学びの成果につなげること、学びの成果を実質化することを目的とし、学生の学びの実態を把握する。なお新入生調査および上級生調査により、『生涯学び続け、主体的に考える力』を意味する主体的な学修態度が醸成されるよう、現状の分析と推移を検証し、学士課程教育の改善をはかるための基礎資料とする。」

学修行動調査から見た科学技術学部 학생 に関する一考察

科学技術学科 佐々木秀明

科学技術学部の学生の特性を，教養学部および薬学部の学生との違いを中心に考察した。

A：科学技術学部学生の受動的態度

アンケート項目

(1) I. 授業中に学生同士が議論をする

科学技術 あった 57%

教養 あった 78%

薬 あった 84%

(1) K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

科学技術 あった 39%

教養 あった 59%

薬 あった 54%

(2) F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

科学技術 あった 10%

教養 あった 21%

薬 あった 20%

科学技術学部の学生は他学部と比較して，授業に対する積極度を量る項目で有意に数値が低い傾向を示した。能動的な授業参加が乏しい傾向にあり，受け身の姿勢で授業に臨んでいることが伺える。

B：科学技術学部学生の真面目さ

(2) D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった

科学技術 あった 23%

教養 あった 34%

薬 あった 22%

(2) G. 授業を欠席した

科学技術 あった 21%

教養 あった 42%

薬 あった 28%

(2) H. 授業に遅刻した

科学技術 あった 10%

教養 あった 24%

薬 あった 27%

科学技術学部の学生は他学部と比較して、若干ではあるが決まり事の達成度を量る項目で良い傾向を示した。先の項目で受け身の態度を示すものの、決められたことに対しては真面目に取り組む特性を有することが伺える。

このような学生の成長を促すには、学ぶべきことを体系的に構築したモデルを学生に提供し、時間をかけてでもこなしていくスタイルが最良な方法と考えることができる。選択の幅がありすぎると、逆に成長の阻害になる可能性も否定できない。

C：就職に対する意識の高さ

(2) M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

科学技術 あった 51%

教養 あった 11%

薬 あった 21%

科学技術学部の学生は他学部と比較して、就職に対する積極度を量る項目で有意に数値が高い傾向を示した。科学技術学部の学生は就職に対して高い意識を有しており、さらに教職員への能動的な働きかけを示していることから、大学における学びと就職を同一視していると言える。

科学技術学部では 3 年後期より研究室に所属され、教員と密な学びが行われる。学びは専門分野に限らず、就職活動全般にも及ぶ。この結果が就職に対する意識の高さを醸成しているものと考えられる。

学びに関しては受動的ではあるが、就職に対しては能動的という科学技術学部学生の特徴が浮かび上がった。本学における理工系の学生の活躍は、この点に留意して教育体系を構築することが重要である。

2. 大学における学習状況について（科学技術学部）

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける



(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた



(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験に出る



B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. 大学外でアルバイトや仕事をする



F. 読書をする(マンガ・雑誌を除く)



G. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



H. ボランティア活動に参加する



I. メール、Facebook、LINE等の利用



J. 平日(授業のある日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



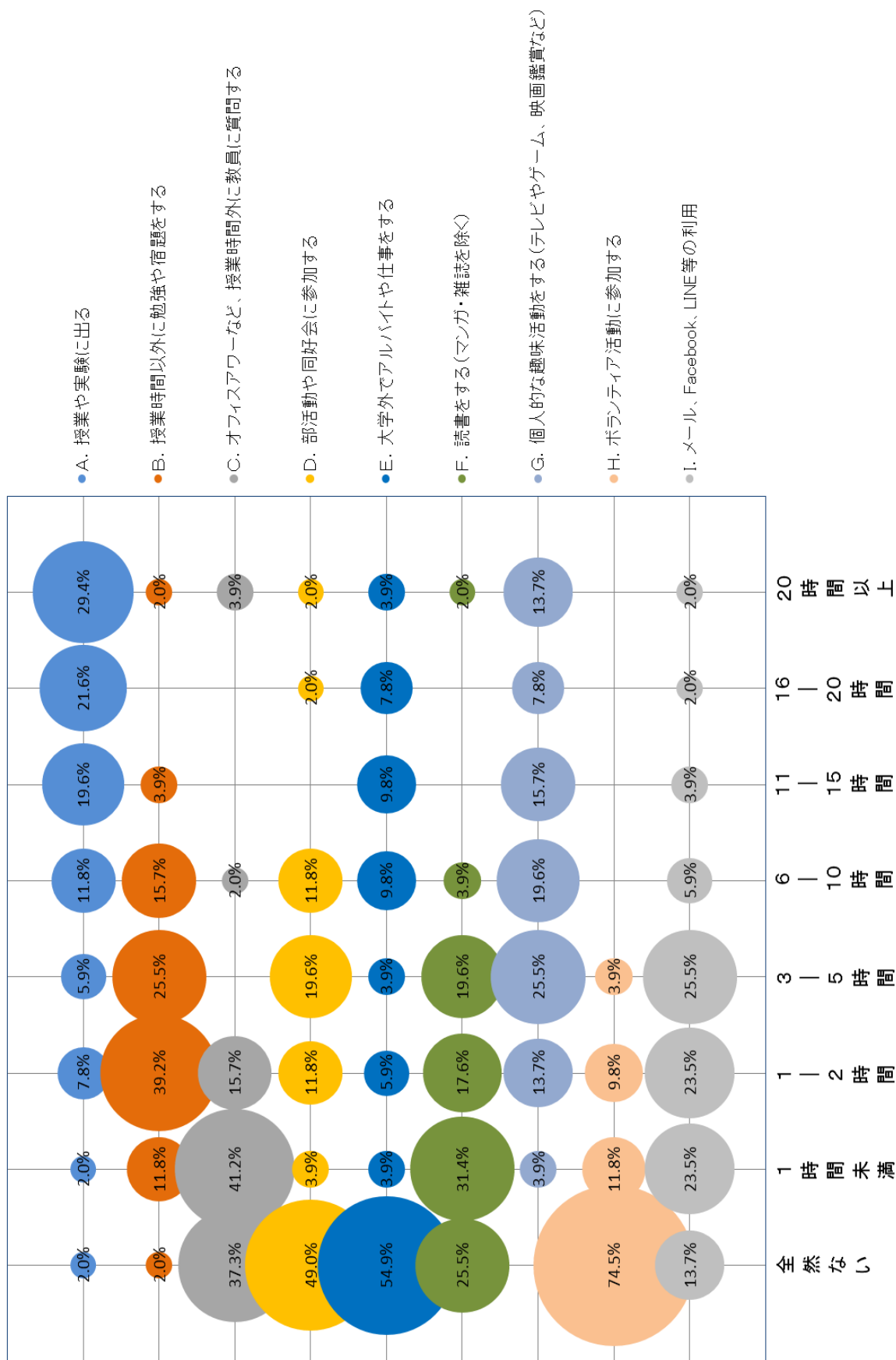
S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



H28（３）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか【科学技術学部】



平成 28 年度学修行動調査(人文学部)
大設問 2 「大学における学修状況について」の分析

地域教養学科 石川哲夫

- (1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

◇特に達成されている項目

- E. 学生自身が文献や資料を調べる
- F. 定期的に小テストやレポートが課される
- M. 出席することが重視される

◆達成が劣り改善を要する項目

- D. 授業の一環でボランティア活動をする
- N. SA・TA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける

☆改善に向けた対策

各学年の負担程度を考慮し、意図的なボランティア活動の場面を設定し人のために役に立つことの大切さ、思いやりの精神を育む必要がある。

- (2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

◇特に達成されている項目

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した
- D. 提出期限までに授業課題を完成できた

◆達成が劣り改善を要する項目

- K. 教員の研究プロジェクトに参加しなかった
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に不参加
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談

☆改善に向けた対策

学生が教科時間以外に教員との対話、教員の研究活動の手伝いを行ったり学生同士、チューター研究室ごとさらに気軽に相談できる環境の構築が必要と思われる。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

◇特に達成されている項目

A. 授業や実験に出る

G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

◆達成が劣り改善を要する項目

C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する

D. 部活動や同好会に参加する

E. 大学外でアルバイトや仕事をする

H. ボランティア活動に参加する

☆改善に向けた対策

・初年次に「生きがい・やりがい」が感ずるよう、教科外活動や愛好会加入に、支援可能な教員・職員がかかわる。

・初々しい年度当初に、ボランティア諸活動紹介の機会を設け、大学生時代に1つ以上、人の役に立つボランティア活動に取り組むよう啓発に努める。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

◇特に達成されている項目

A. 一般的な教養

B. 分析力や問題解決能力

C. 専門分野や学科の知識

D. 批判的に考える能力

H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

O. プレゼンテーションの能力

Q. コンピュータの操作能力

◆達成が劣り改善を要する項目

P. 数理的な能力

S. グローバルな問題の理解

☆改善に向けた対策

・リメディアル教育やキャリア教育の一環として、学修能力に沿った公文式ドリルやS Pへの取り組みを支援する。

・教科授業の中で機会があれば発展問題としてグローバルな課題を提示し、修得した知識を活用して問題解決的な取り組みを体験させる。

2. 大学における学習状況について（人文学部）

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける



(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた



(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験に出る



B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. 大学外でアルバイトや仕事をする



F. 読書をする(マンガ・雑誌を除く)



G. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



H. ボランティア活動に参加する



I. メール、Facebook、LINE等の利用



J. 平日(授業のある日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力

1.大きく増えた	2	2.70%
2.増えた	10	13.51%
3.変化なし	47	63.51%
4.減った	9	12.16%
5.大きく減った	6	8.11%
合計	74	100.00%

Q. コンピュータの操作能力

1.大きく増えた	6	8.22%
2.増えた	40	54.79%
3.変化なし	24	32.88%
4.減った	2	2.74%
5.大きく減った	1	1.37%
合計	73	100.00%

R. 時間を有効に利用する能力

1.大きく増えた	3	4.05%
2.増えた	34	45.95%
3.変化なし	31	41.89%
4.減った	6	8.11%
5.大きく減った	0	0.00%
合計	74	100.00%

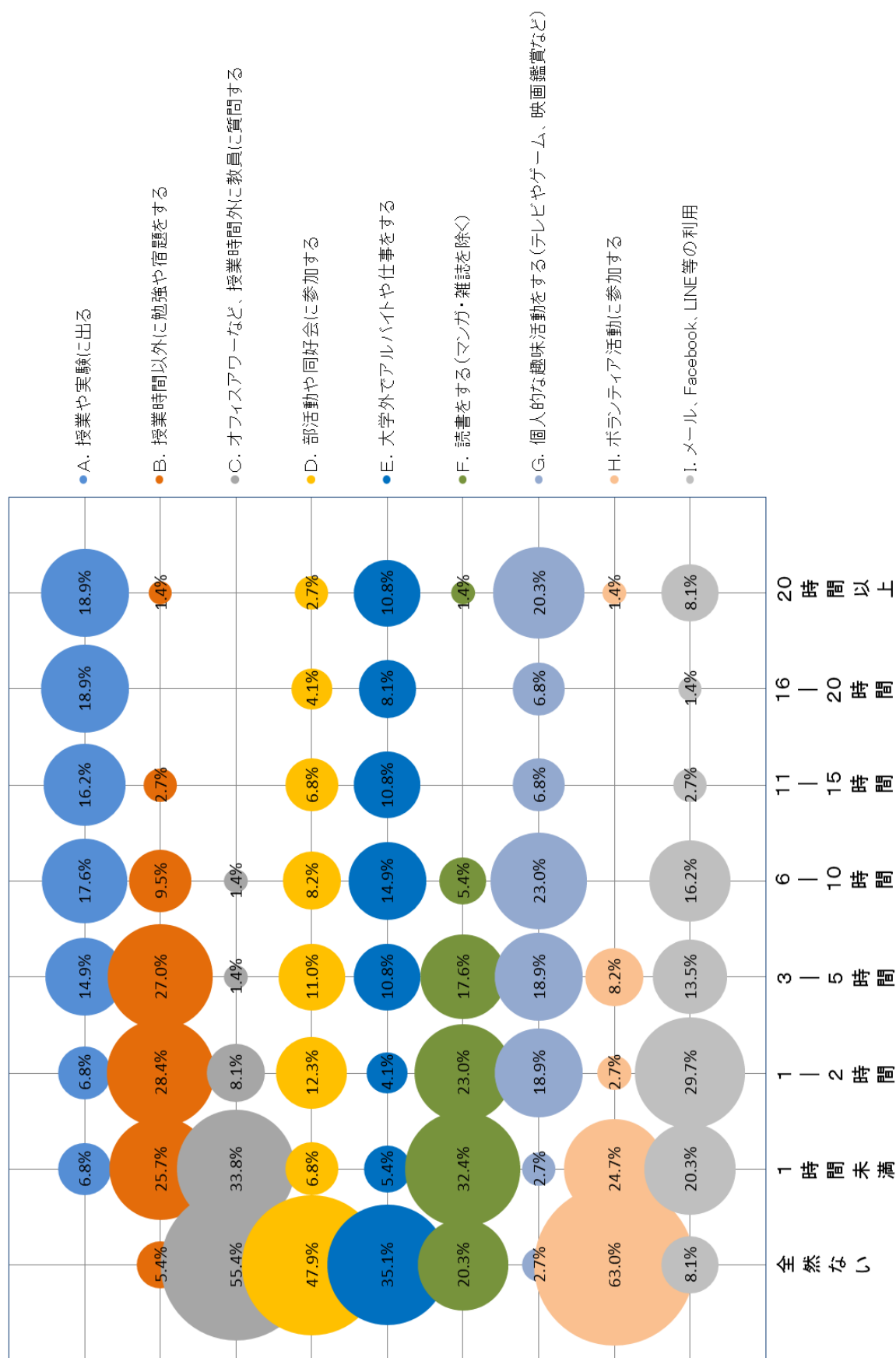
S. グローバルな問題の理解

1.大きく増えた	0	0.00%
2.増えた	24	32.43%
3.変化なし	47	63.51%
4.減った	3	4.05%
5.大きく減った	0	0.00%
合計	74	100.00%

T. 卒業後に就職するための準備の程度

1.大きく増えた	6	8.11%
2.増えた	34	45.95%
3.変化なし	31	41.89%
4.減った	3	4.05%
5.大きく減った	0	0.00%
合計	74	100.00%

H28（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか【人文学部】



2016 年度 学修行動調査結果に対する考察：教養学部

地域教養学科 大原貴弘

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした

今回の回答者が1年生だったこともあるが、ほとんどの学生が教職員に相談をしていなかった。

今後、学生からの相談を促す仕組みや相談しやすい環境を整備し、さらに教職員からの声掛けなどを行うことで、早い時期から相談の機会を増やしてゆく必要がある。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験にである

B. 授業時間以外に勉強や宿題をする

C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する

回答者のほとんどが授業には参加しているものの、それ以外には必要最小限の時間しか勉強しておらず、そのため、教員への質問なども少ない傾向にある。

現在、正規の授業時間外にも予習復習の時間が求められている状況なので、学生の自発性だけを期待するのではなく、予習復習の課題を教員の方から明示する必要がある。また、自主的な勉強会や教員への研究プロジェクトへの参加の機会を増やしてもよいのかもしれない。

D. 部活動や同好会に参加する

H. ボランティア活動に参加する

全体的に、部活動やボランティア活動への参加者数が少ない。部・委員会活動によって学業に支障をきたす学生は、以前に比べると減ったように感じるが、その一方で部員数が少ないため活動が維持できない部や同好会も増えてきている。

学園祭など学生を中心とした活動にも大きな支障が出てくるので、勧誘活動の規制緩和なども含め、活動の活発化を促してゆく必要がある。

E. 大学外でアルバイトや仕事をする

半数近くの学生はほとんどしていないようだが、その一方で1割近くの学生は週20時間以上の時間を費やしている。

経済的事項のある学生も少なくないと思われるが、学業に支障が出ないよう、指導する必要がある。

F. 読書をする

G. 個人的な趣味活動をする

読書時間がかなり短い一方で、(テレビやゲーム、映画鑑賞などの)個人的趣味活動へ注ぐ時間が比較的長く、週20時間以上を費やしている学生は15%ほどいる。

適度の趣味の時間は重要だが、ゲーム/ネット依存に近い状態にまでなると、学業だけでなく、生活リズムなどにも支障をきたすことになるので、チューターなどを通して、適宜指導する必要がある。

I. メール、Facebook、LINEなどの利用状況

基本的に多くの学生は利用しているが、その内訳としては、私的な利用以外にも、ゼミ活動やグループ研究に関わる利用、manabaに関わる利用も含まれると考えられる。またネット依存やSNS上でのトラブルなどが生じている可能性もある。以上の点から、利用状況の内訳調査をしてもよいのかもしれない。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

一般的教養や専門分野、学科の知識に比べると、分析力や問題解決能力、批判的思考能力の修得の機会が少ないようである。

講義形式の授業内においても、学生の思考力を育む機会を増やす必要がある。

また、数理的な能力や、地域社会の問題やグローバルな問題の理解を伸ばす機会はまだ少ないようである。

公文や2年次以降のPBL型授業はあるものの、このような機会をカリキュラム編成のなかで増やす必要がある。

以上

2. 大学における学習状況について（教養学部）

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける



(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた



(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験に出る



B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. 大学外でアルバイトや仕事をする



F. 読書をする(マンガ・雑誌を除く)



G. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



H. ボランティア活動に参加する



I. メール、Facebook、LINE等の利用



J. 平日(授業のある日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



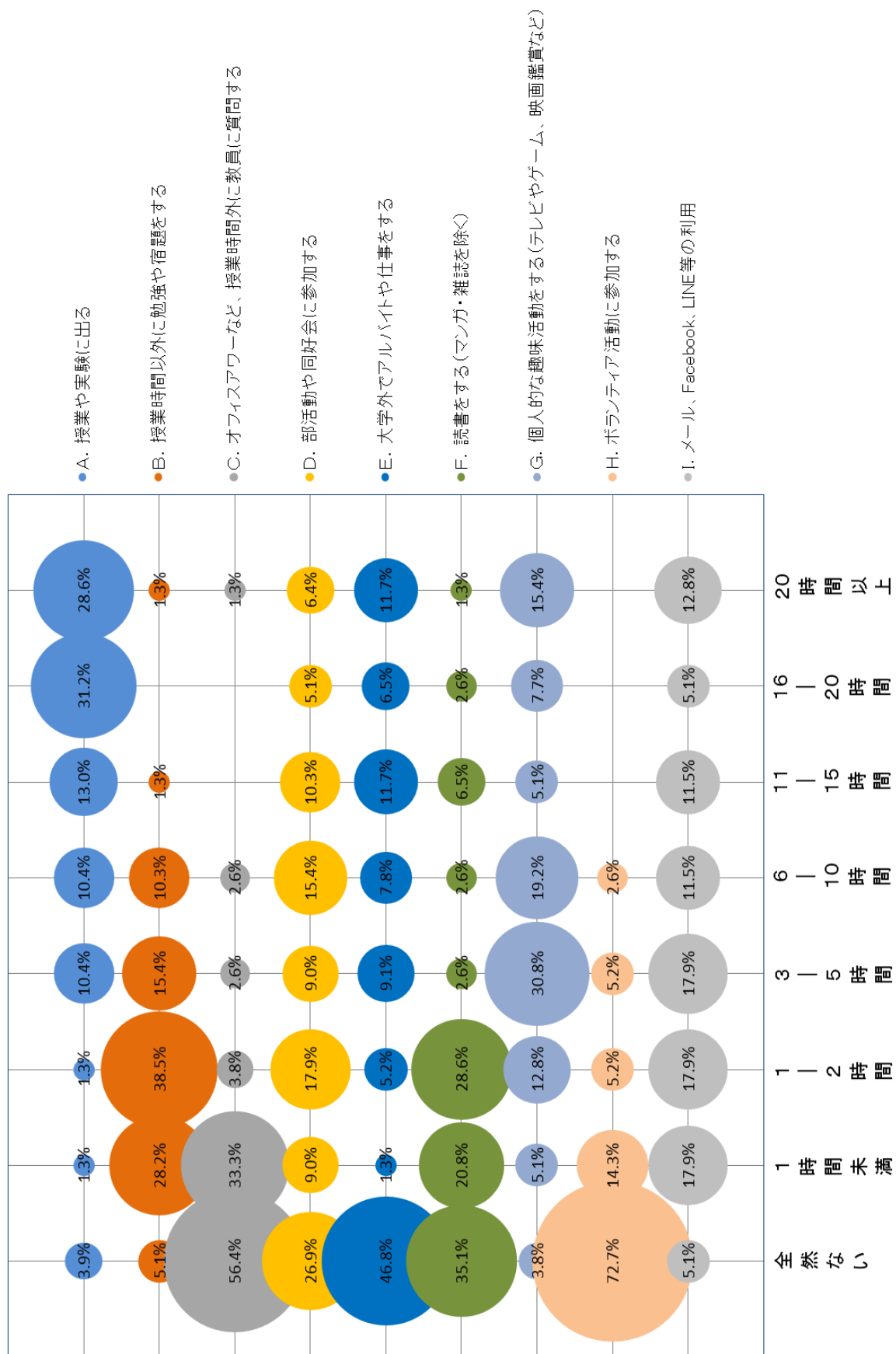
S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



H28（３）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか【教養学部】



いわき明星大学「学修行動調査 2016」教養学部と薬学部の比較

薬学部 山浦 政則

2. 大学における学習状況について

(1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- A 実験・実習・フィールドワークの差は、カリキュラムの差であると思われる。
- B 「仕事」と言われても、仕事自体を、特に低学年の学生は具体的にイメージできていない。
- C 講義内容によっては、必ずしも日常生活や社会と関わりの無いものも少なくない。
- E 文献や資料の調査の度合いも、カリキュラムや講義形態の差によるところが大きい。
- G 添削やコメントも、カリキュラムや授業形態によるところが大きい。
- H, I 自分の考えを発表（薬 83%；教養 80%）したり、学生同士が議論する機会（薬 84%；教養 78%）がたくさんあるという事は、「主体的な学び」を推進させてゆく上で重要である。
- J 授業で学生がテーマを決められるかどうか、カリキュラムに負うところが大きく、必修専門科目のほとんどは、自由度が極めて小さい。
- K 授業の進め方に学生の意見が反映できる部分は、一般にごく一部の科目に限られている。
- L 薬学部では時間割がタイトで、特に1,2年生の選択科目では、科目選択の余地はほとんどないが、以外と不満が少ない。
- M 質問の意味が、「教科書を読んでいる様な授業でも、出席していれば単位がもらえる」ということなのか、「授業1回分を自力で取り返すのは大変なので出席する事を求めている」のか、ニュアンスが微妙です。
- N NGA 制度の有無の差であろうか。教養学部の方が、かなり上手に行っているようである。

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

- A 薬学部では、図書館を利用する学生もいるが、声を出してグループ学習できるスペースが人気で、場所の取り合いが激しい。
- B, C 両学部とも、インターネットが学生の学修に上手く活用されている。
- D 「提出期限までに授業課題を完成できなかった」の質問の意味はどうだろう。「課題の求めている中身が大きすぎて期間内に終わらない」のか、始めるのが遅い等「学生自身の問題で期間内に終わらない」のか、どちらでしょうか。薬学部では、前者に受取る学生が多いように思う。
- E 開設当初から、例えば私は「勉強は団体戦」と言い続けてきており、大分定着してきた。
- F 薬学部では、講義中教員の間違いを指摘する雰囲気が出来ていると思う。非常に素晴らしいことである。しかし、これが頻繁に起こるという事は、教員の準備不足の要因が大きいので、複雑な思いである。（学生の主体性を調査しているのか、教員の準備不足を調べているのか）
- G, I, J は連動しているように思える。しかし、コアカリキュラムで位置付けがはっきりしている薬学部のカリキュラムと、教養学部のカリキュラムでは異なる。教養学部の学生にとっての各科目の重要度（例えば、留年とかに直結するかどうか）が異なるので、単純に比較できない。
- M 私の経験では、「キャリアの話」は、教員が積極的にぶっつけていけない限り、学生側から積極的に来るケースは極めて希である。科学技術学部の51%は素晴らしい。
- N 「教員に親近感を感じた」は両学部ともに60%と、素晴らしい数字であると思う。

(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

- A カリキュラムにより決まる。
- B 両学部の間隔は、主に、進級基準の厳しさの違いによるものと考えられる。さらに、薬学部の学生は、期末、中間試験および再試験の期間は、日曜、祭日も含め睡眠時間を4-5時間以内に削って勉強している学生がほとんどである。この試験前の学修時間や実習のレポートの準備などの時間を合算し、なお「予習・復習時間が文部科学省の規定を超えていない学生」は、進級が危うい状態にあると思われる。薬学部では、表面的な学修時間は問題ないが、日々の学修をより習慣づける事と、学修の効率や質の向上をどう指導して行くかが課題であると思う。
- C 薬学部では、少しでもそれぞれの科目の理解を深め、確実に単位を取って留年したくないという危機感が強いから、必死なのかもしれない。
- D, E, F, G, H, I 部活、アルバイト、読書、ゲーム、ボランティア、SNS など； 勉強に追われ、時間的余裕の無さからこの差が生まれると思われる。薬学部でも、アルバイトとサークルと勉強をしっかりと4年生までやりきる学生も、ごく少数いるが、多くの学生はそんな余裕が無い。家庭の事情でアルバイトを余儀なくされた学生もいるが、アルバイトのため成績不振で辞めていった学生も少なくない。また、サークルやバンドで成績を落として留年、退学する学生も少なくない。勿論、薬学部でもサークルやアルバイトも必要な体験であるし、大切であると思う。出来れば、ボランティアも経験して欲しい。問題は、各学生の「自分を見極める（これ以上のめり込むとまずい）」能力である。
- 結局、薬学部では、多くの学生が良く学修に励んでいる。しかし、もしチャンスがあれば、趣味やサークル活動にある程度時間を割きながら、ゆとりを持って学修に当たれるレベルまで、底上げをして行きたい。
- J, K 薬学部では、授業の合間がほとんどない。学部規定で夜10時まで（土、日、祭日は午後5時まで）には帰らなくてはならないので、平日は勿論、土曜、日曜、祭日も、早朝からグループ学修をするスペースの奪い合いが、毎日のように繰り返されている。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

- A, B, C, D, F, G, L, N, O, P, Q, R 一般的な教養、問題解決能力、専門知識、批判的に考える能力、リーダーシップ、人間関係構築力、他人と連携して物事を遂行する能力、文章表現力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、数理的能力、コンピュータ操作能力、時間の有効利用などは、入学後大きく伸びている。
- I 異文化の人と協力する能力
- J 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K 国民が直面する問題を理解する能力
- M 外国語の運用能力
- S グローバルな問題の理解
- いずれも伸びが悪かった。学生の目が外に向いていないという事か。しかし、この5つの質問には他の共通点がある。上記の入学後大きく伸びている質問項目に比べ、いずれも漠然とした問いかけで、学生が具体的にイメージし難いという共通点がある。
- T 卒業後に就職するための準備の程度
- この質問は漠然としている上、学生に具体的に何を求めているのか理解できない。

(4) のほとんどの項目で、薬学部と教養学部間に大きな差があった。

薬学部の場合は、モデル・コアカリキュラムに基づき、各科目間の位置付けや連携も考慮しながらカリキュラムが構築されている。つまり、何のために何をやるのかが、細かく組み立てられており、学生本人も、教員もそれぞれの時点での各学生のポジションをリアルタイムで確認（低学年は年二回、高学年は毎月のように実力テストが有る）できるようになっている。

一方、教養学部ではカリキュラムが全く異なる。従って、明確に「何をここまで」と示し難いので、学生も進歩の度合いを実感し難い。多様性を望むと、目盛りが増えて簡単に随時伸びを測れないため、学生が実感し難くなる。そんな訳で、ここでは単純に数字を比較してもあまり意味が無いと思われる。恐らく教養学部では、低学年と、ゼミを経験してからでは、学生の感じとる手応えが大きく違うのではないか。

アメリカ、ヨーロッパではたとえ人文系でも、大学教育が「専門的職業人」を育てるスタイルである。なぜなら、企業がそれを求めているからである。一方、日本の多くの企業は、理系の場合でさえも、必ずしも即戦力を求めない。教育は、入社後自前でやるので、一人の人間としてのポテンシャルの高さ（潜在能力の高さ）と適材適所を考慮して、多くの企業が新入社員の採用を決める。

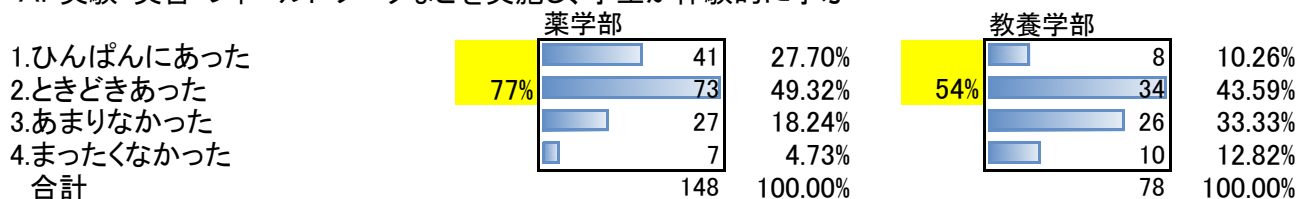
勿論、薬学部や看護学部は典型的な「専門的職業人」を育成する学部である。

2. 大学における学習状況について（薬学部）

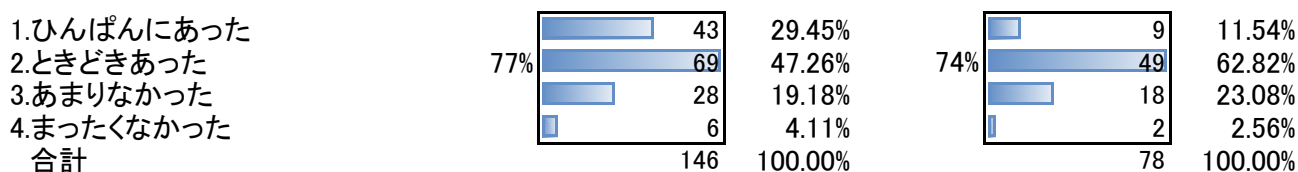
10%から20%弱の差
約20%かそれ以上の差

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

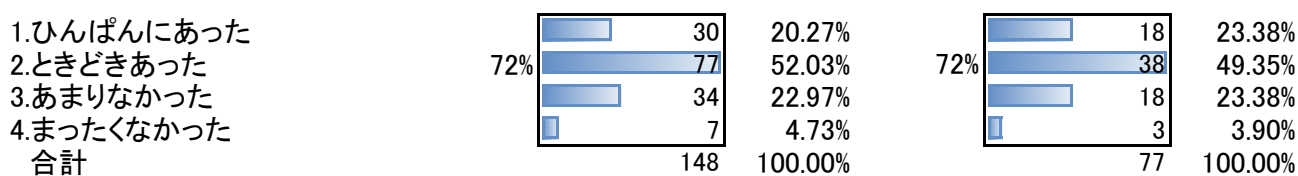
A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



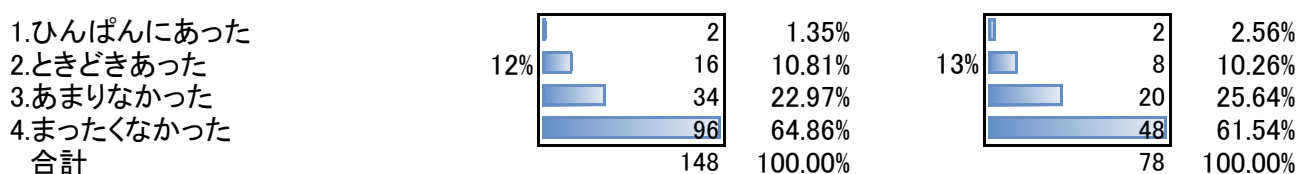
B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



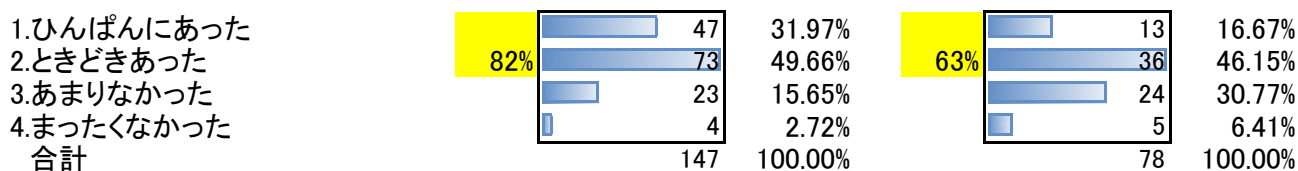
C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



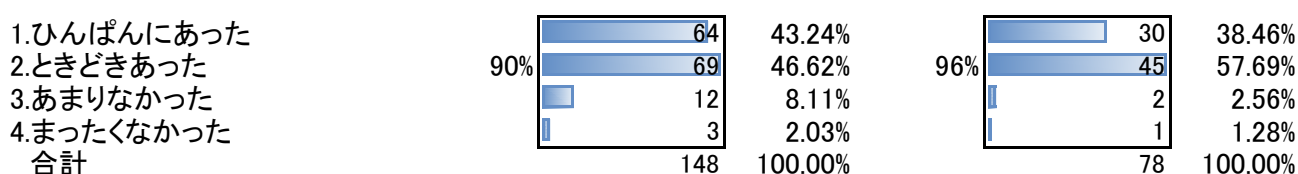
D. 授業の一環でボランティア活動をする



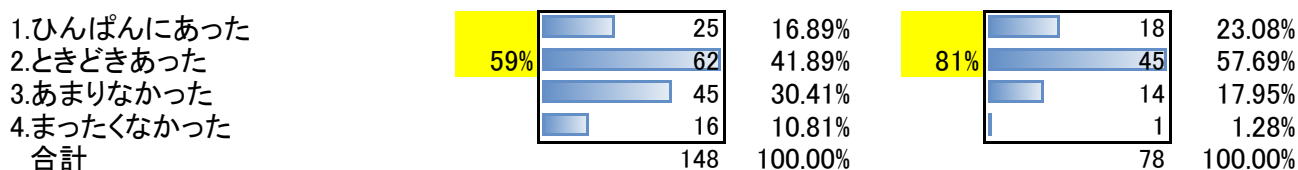
E. 学生自身が文献や資料を調べる



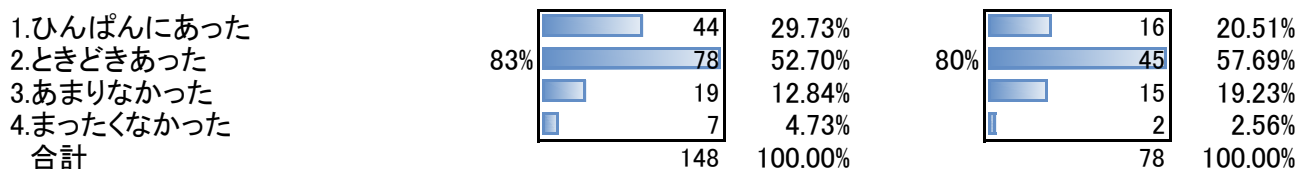
F. 定期的に小テストやレポートが課される



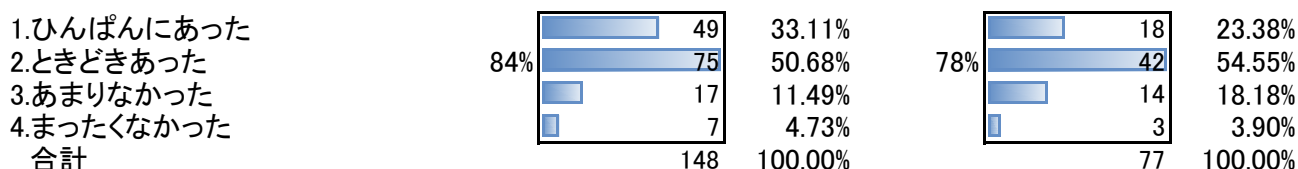
G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



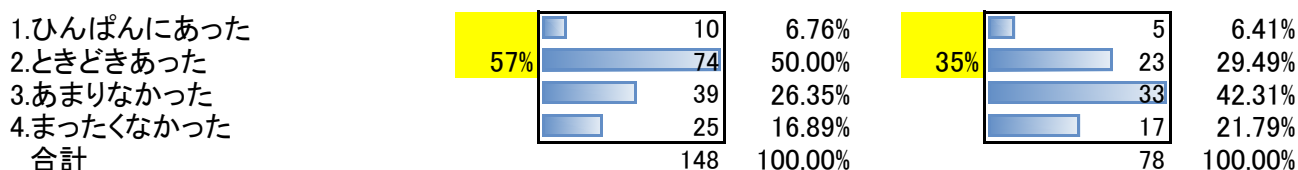
H. 学生が自分の考えや研究を発表する



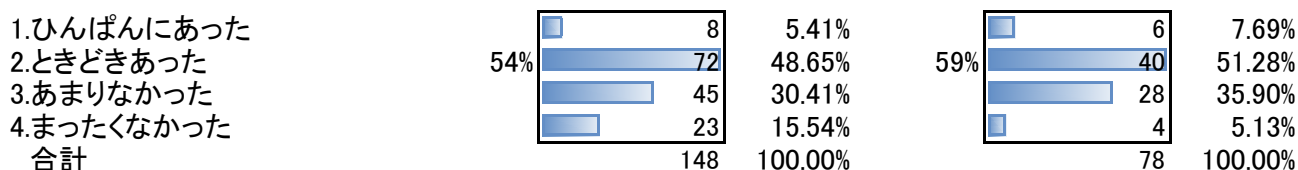
I. 授業中に学生同士が議論をする



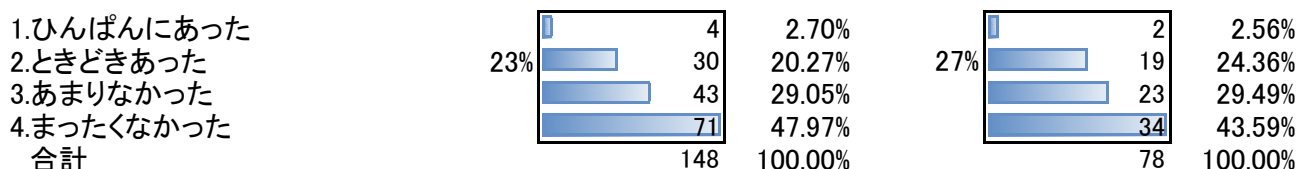
J. 授業で検討するテーマを学生が



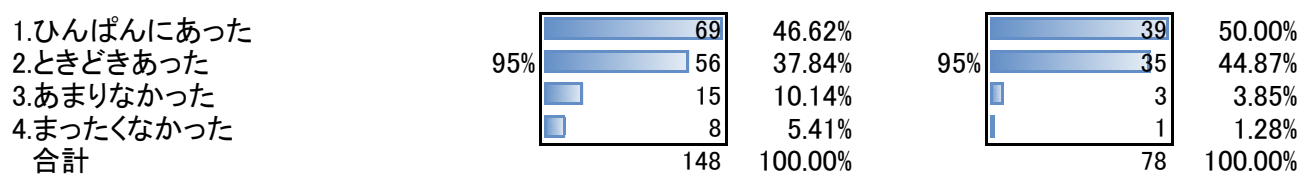
K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



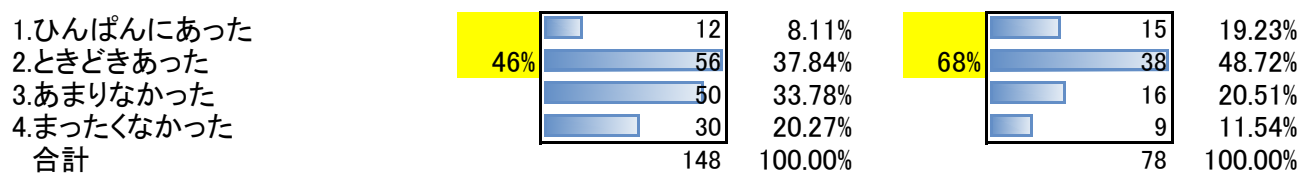
L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける

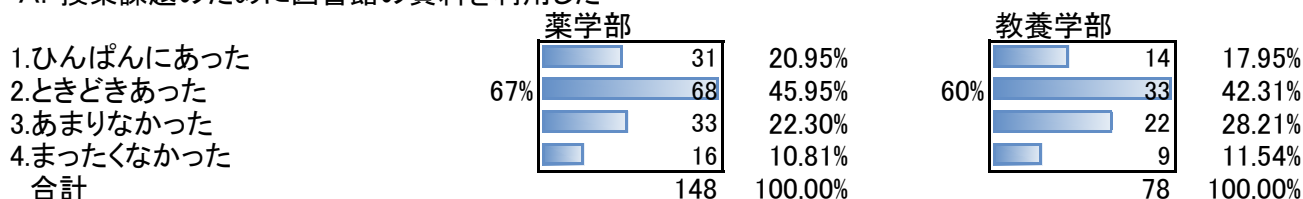


10%から20%弱の差
約20%かそれ以上の差

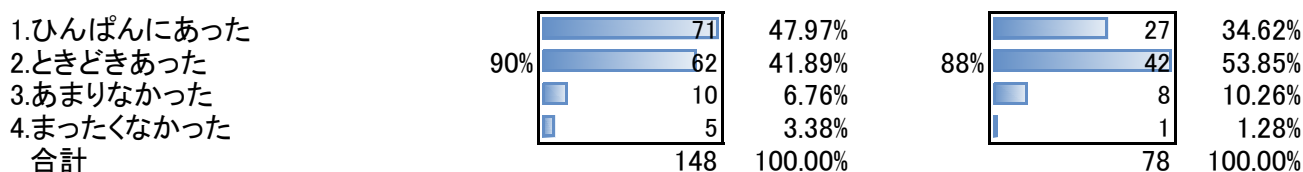


(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

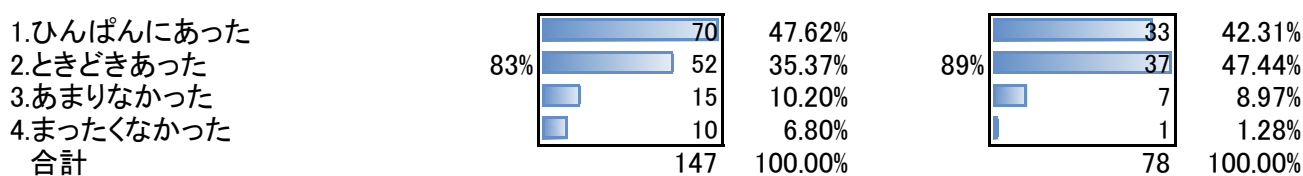
A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



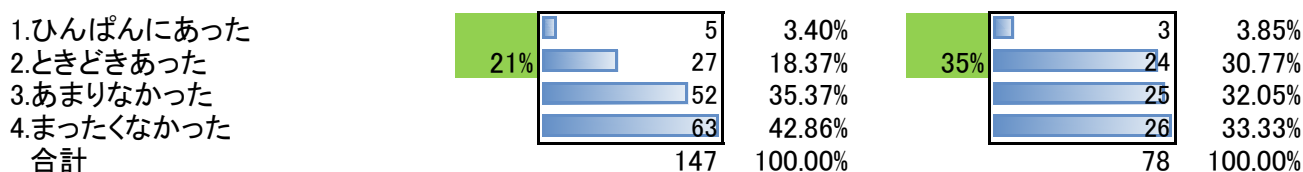
B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



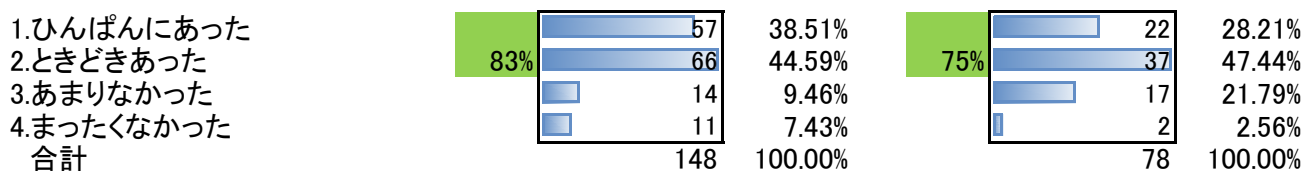
C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



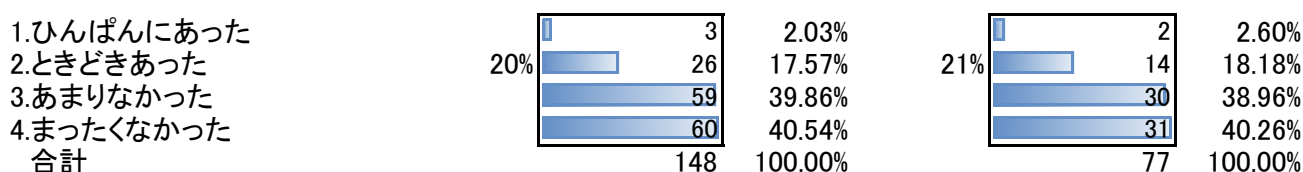
D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

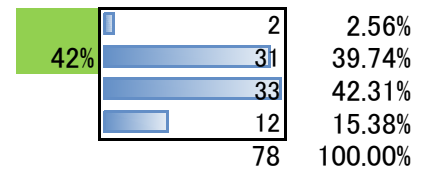
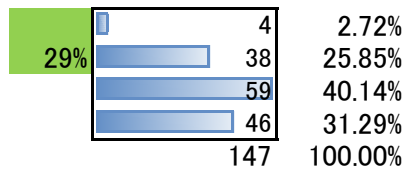


F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



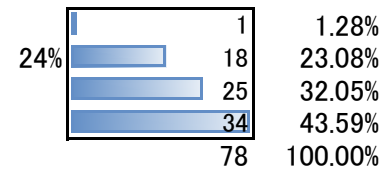
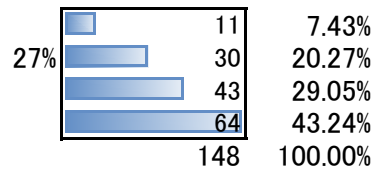
G. 授業を欠席した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



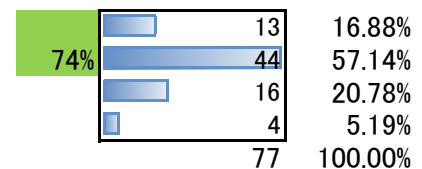
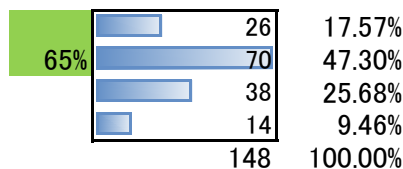
H. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



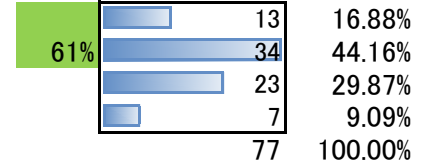
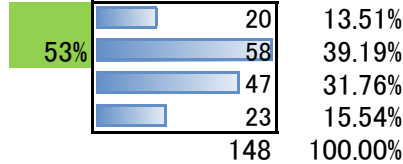
I. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



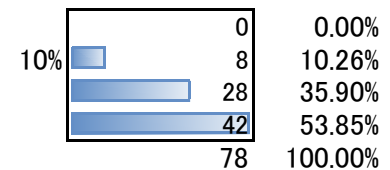
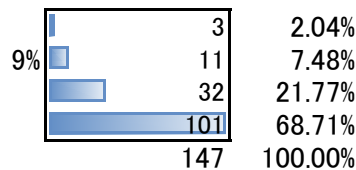
J. 授業中に居眠りをした

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



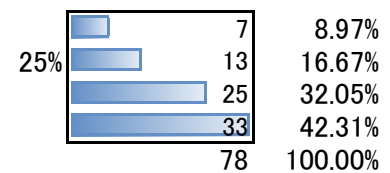
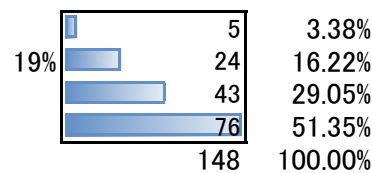
K. 教員の研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計

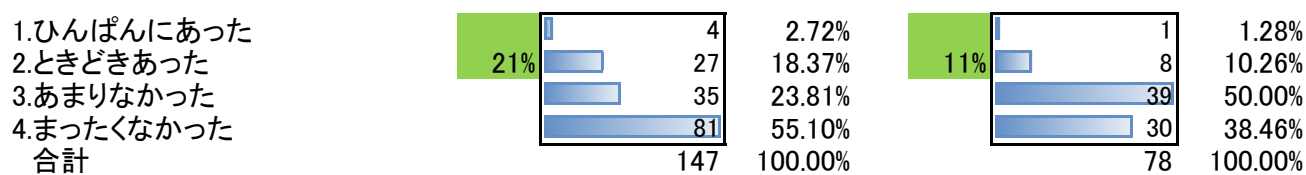


L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

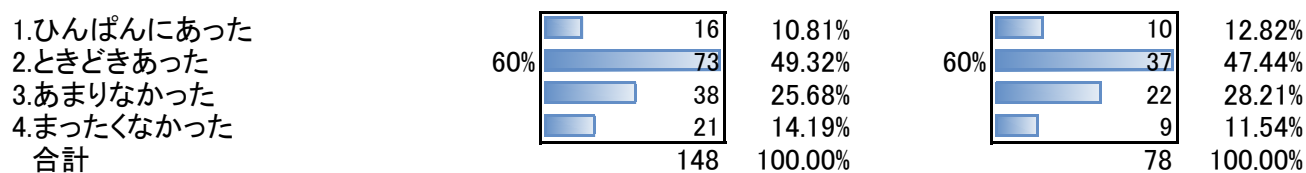
1. ひんぱんにあった
2. ときどきあった
3. あまりなかった
4. まったくなかった
- 合計



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた

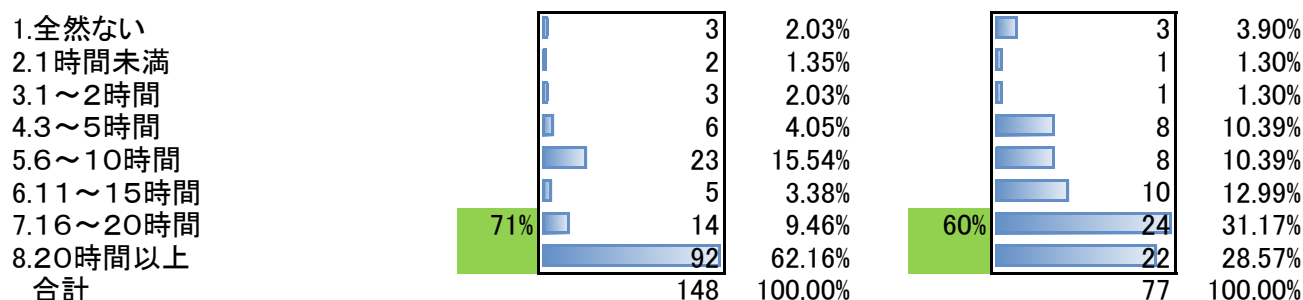


10%から20%弱の差
約20%かそれ以上の差

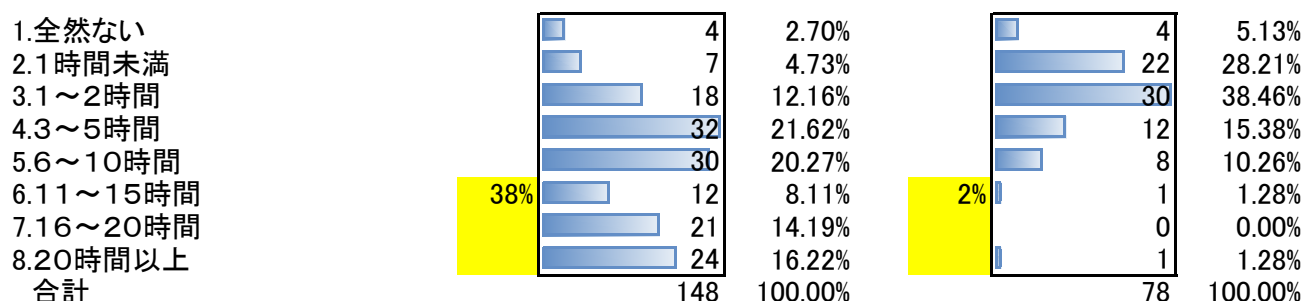


(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

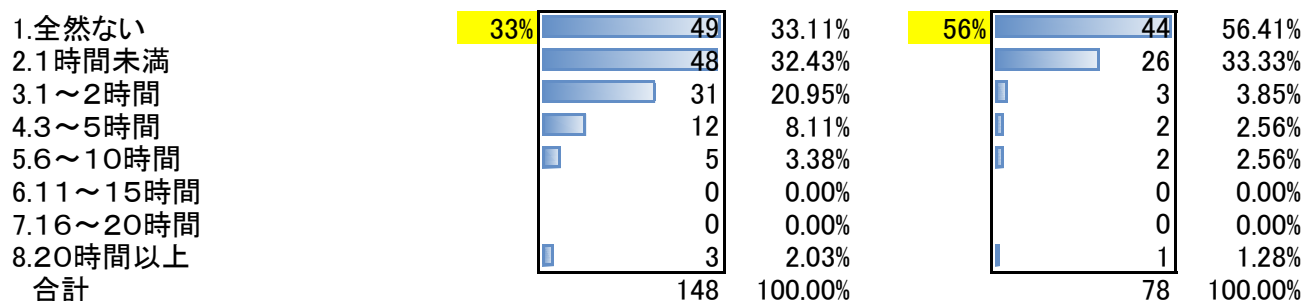
A. 授業や実験に出る



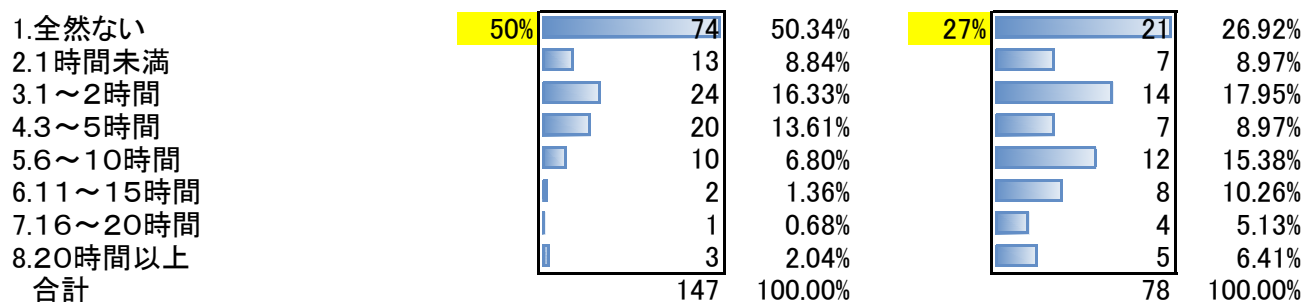
B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



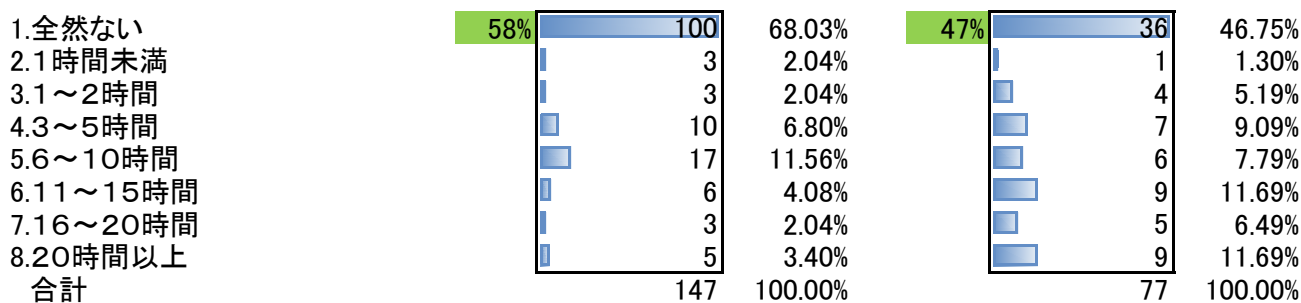
C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



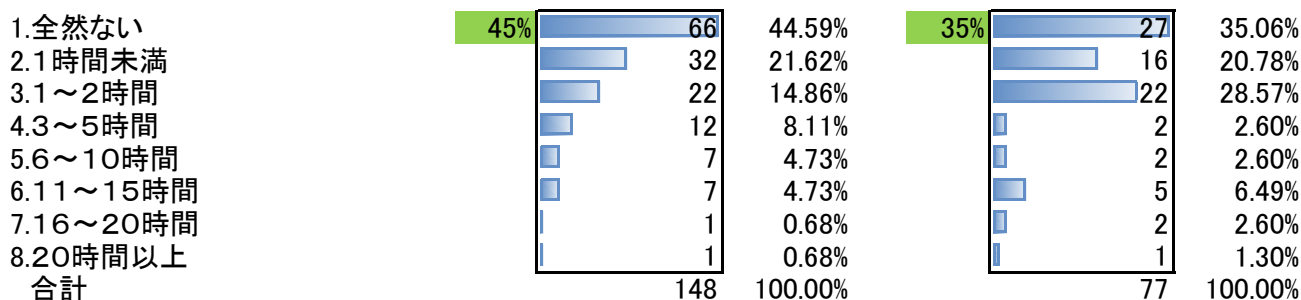
D. 部活動や同好会に参加する



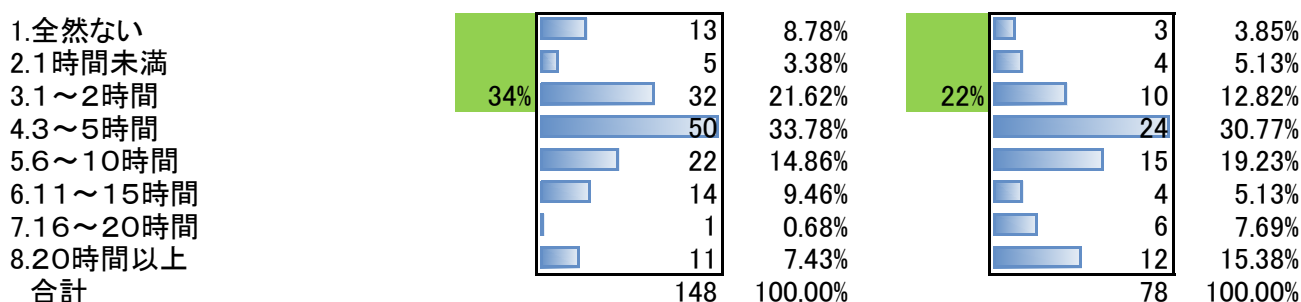
E. 大学外でアルバイトや仕事をする



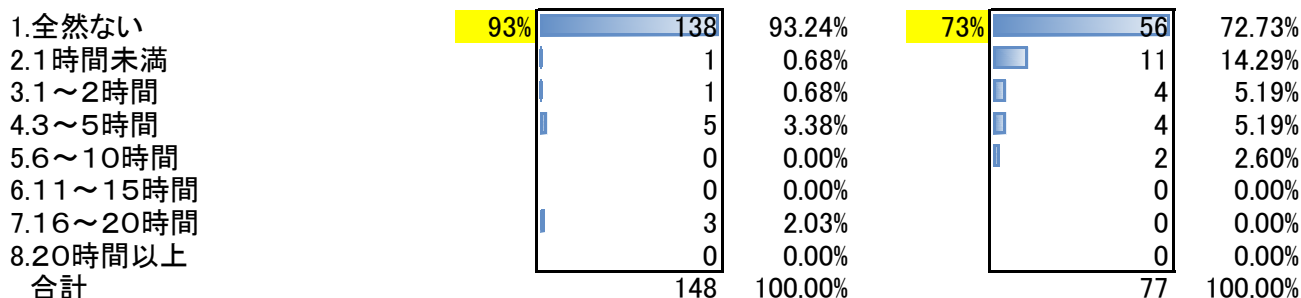
F. 読書をする(マンガ・雑誌を除く)



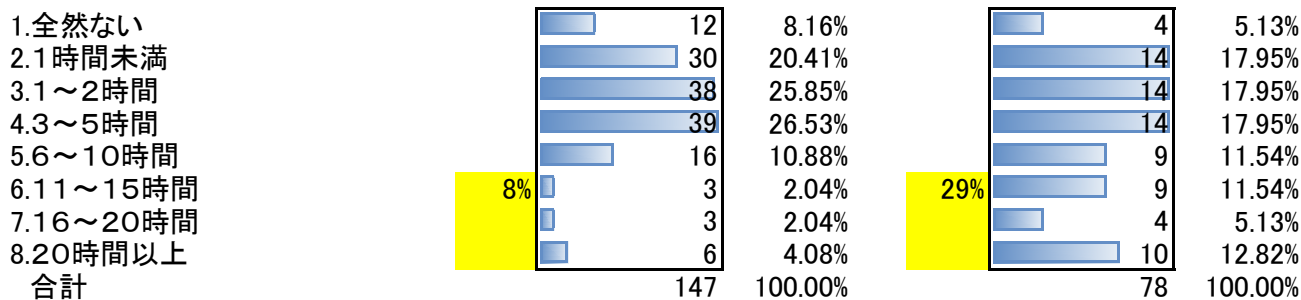
G. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



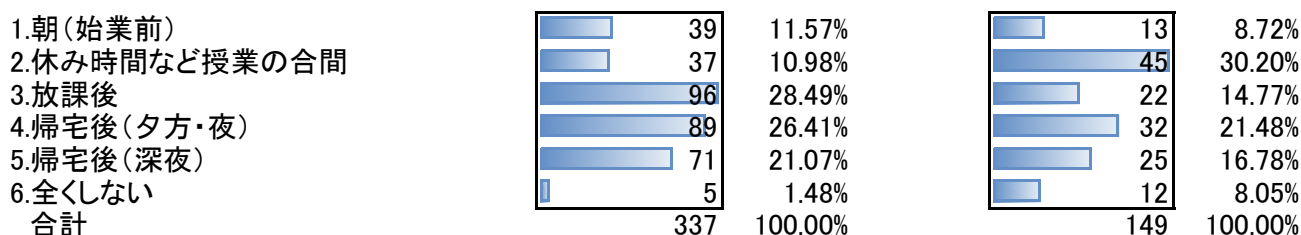
H. ボランティア活動に参加する



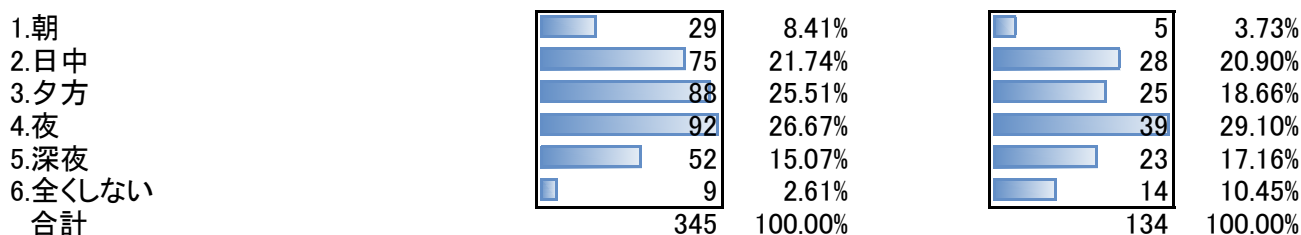
I. メール、Facebook、LINE等の利用



J. 平日(授業のある日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



10%から20%弱の差
約20%かそれ以上の差

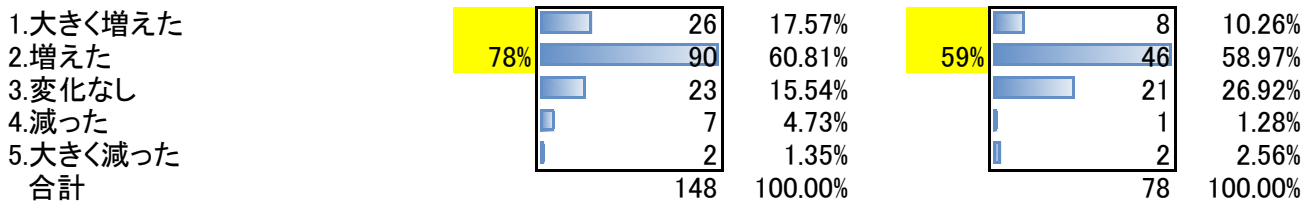


(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

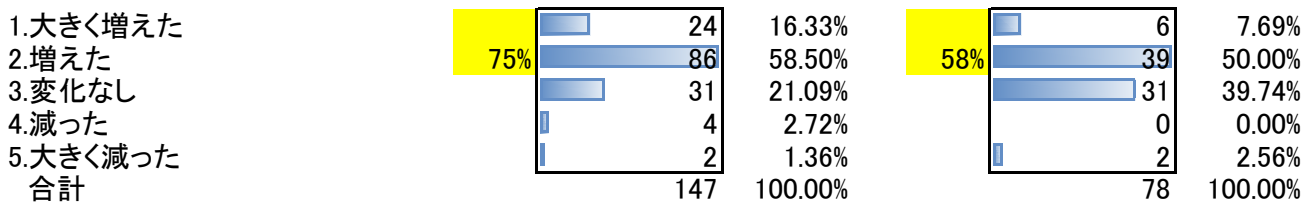
A. 一般的な教養

薬学部

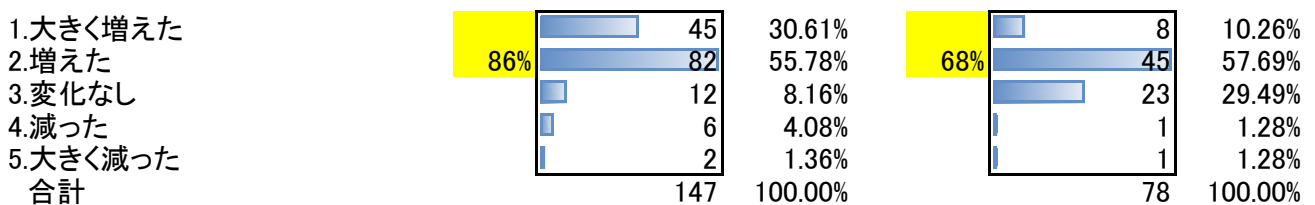
教養学部



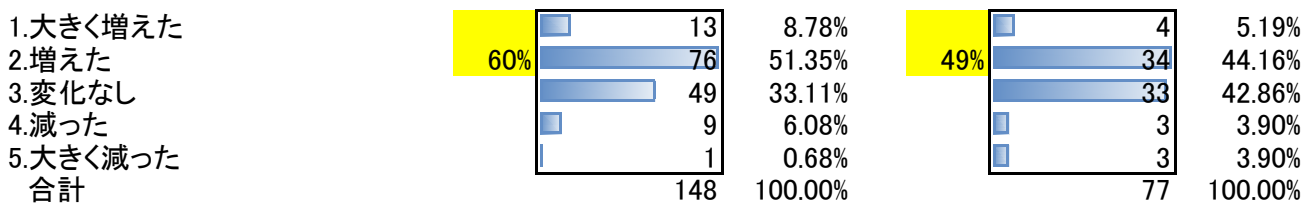
B. 分析力や問題解決能力



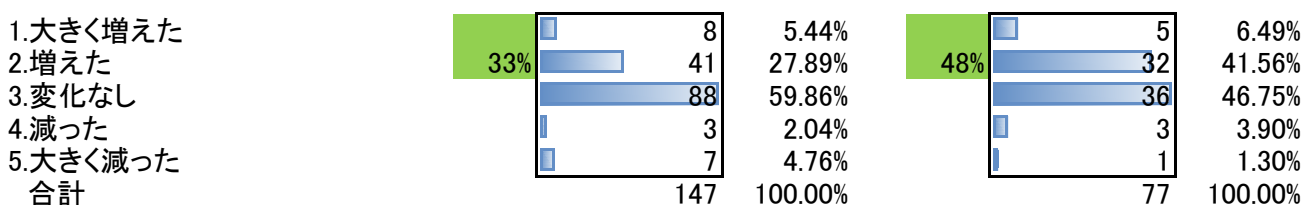
C. 専門分野や学科の知識



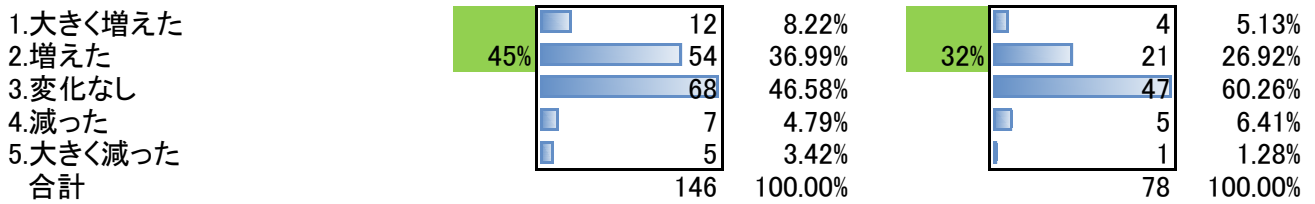
D. 批判的に考える能力



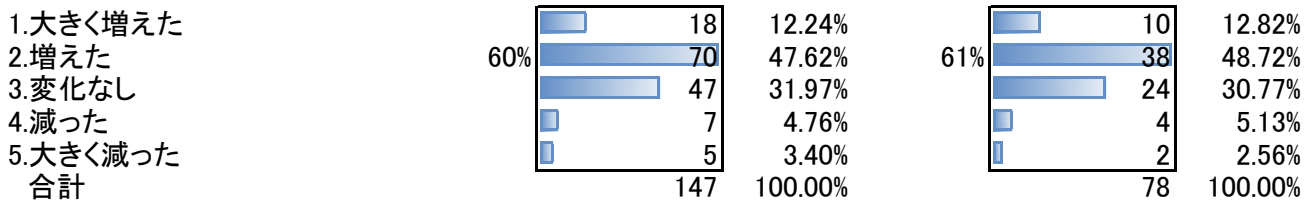
E. 異文化の人々に関する知識



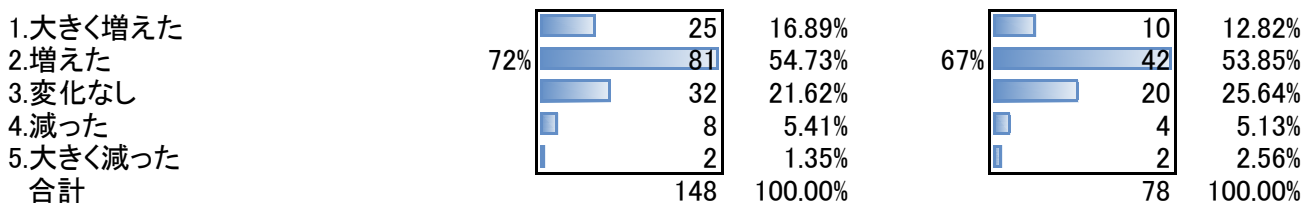
F. リーダーシップの能力



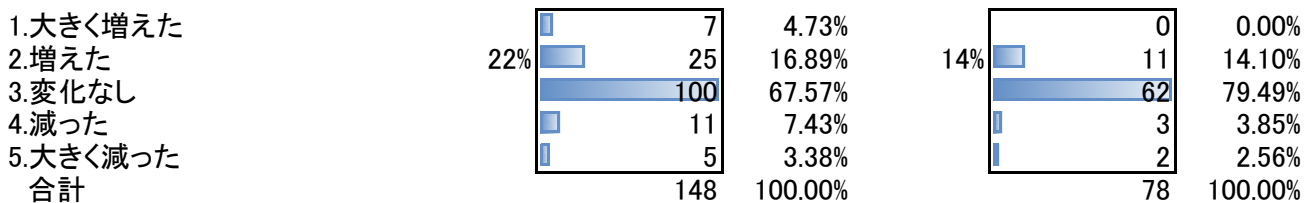
G. 人間関係を構築する能力



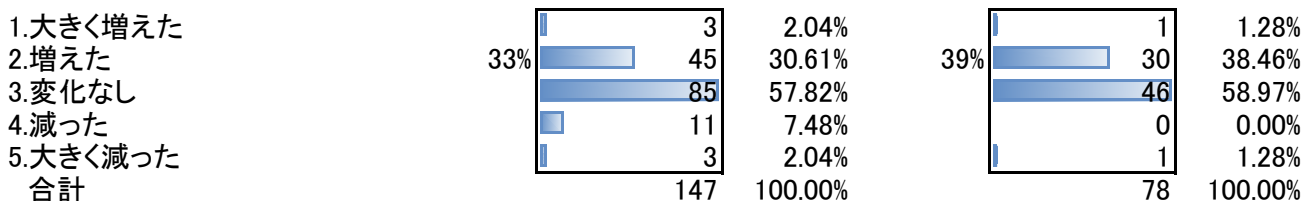
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



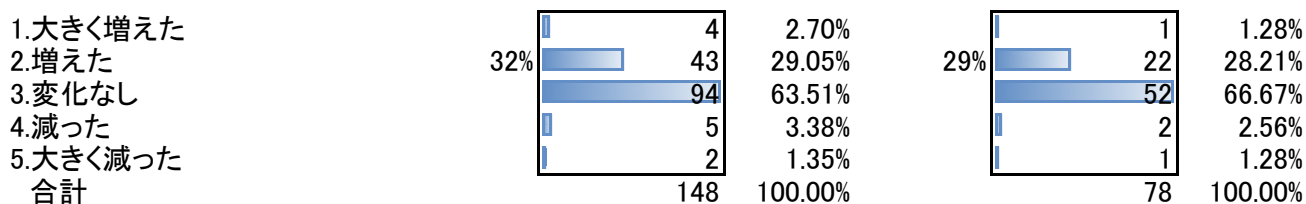
I. 異文化の人々と協力する能力



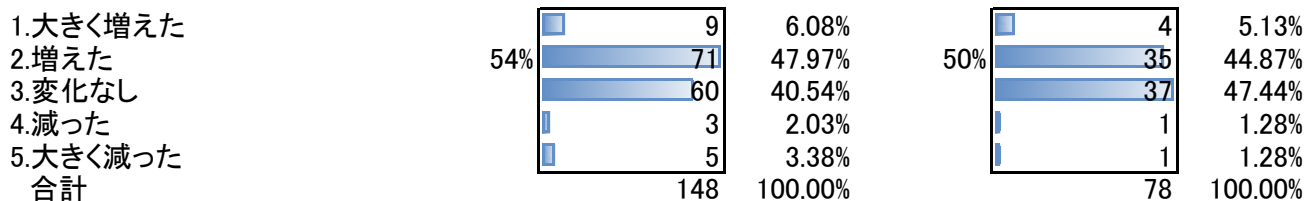
J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



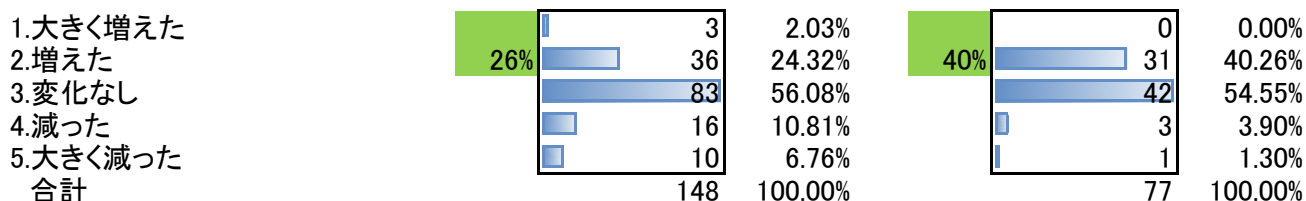
K. 国民が直面する問題を理解する能力



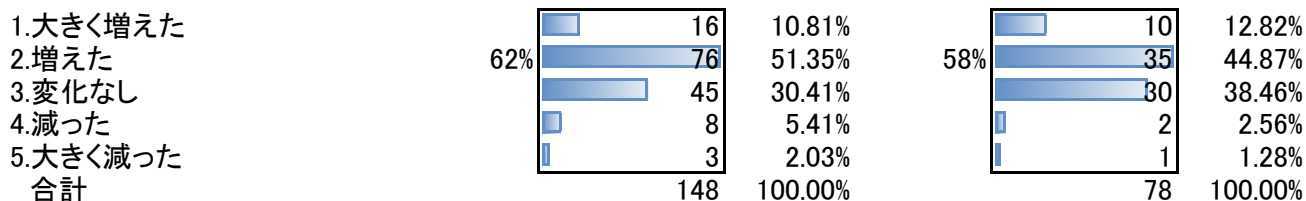
L. 文章表現の能力



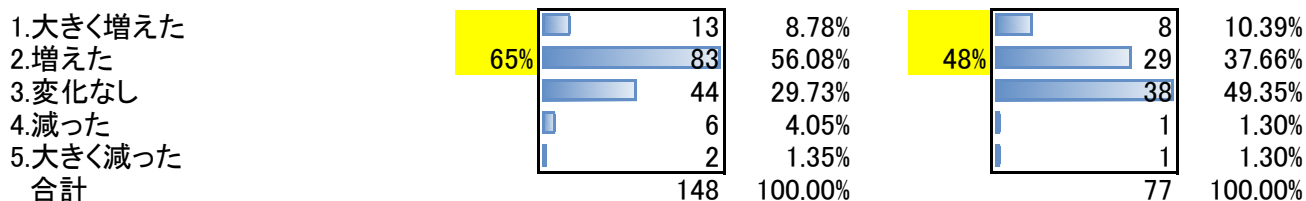
M. 外国語の運用能力



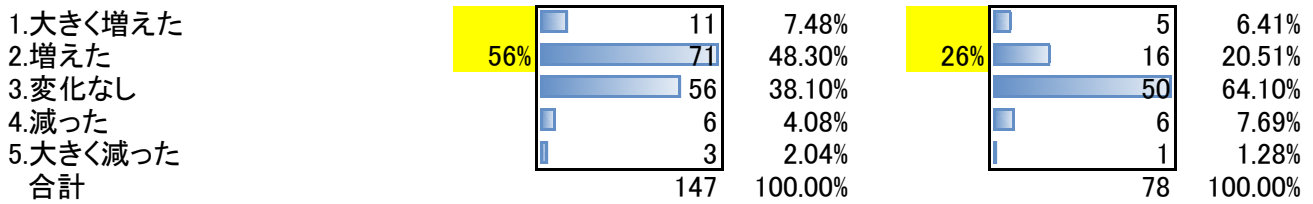
N. コミュニケーションの能力



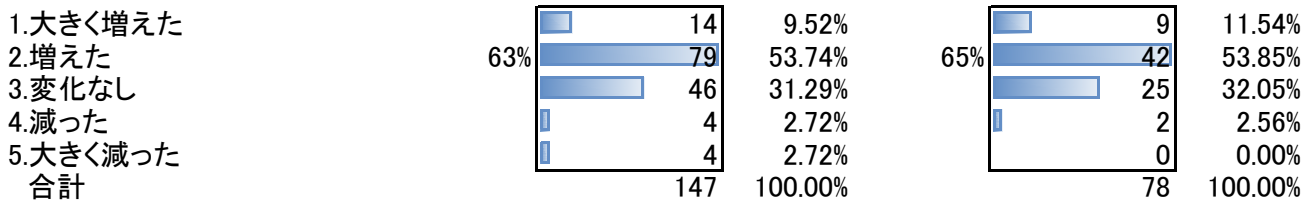
O. プレゼンテーションの能力



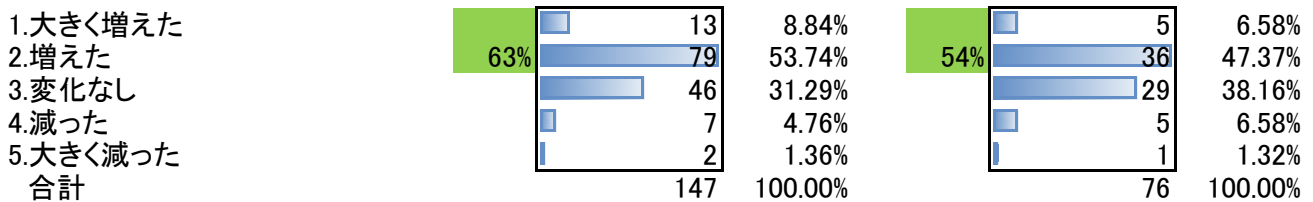
P. 数理的な能力



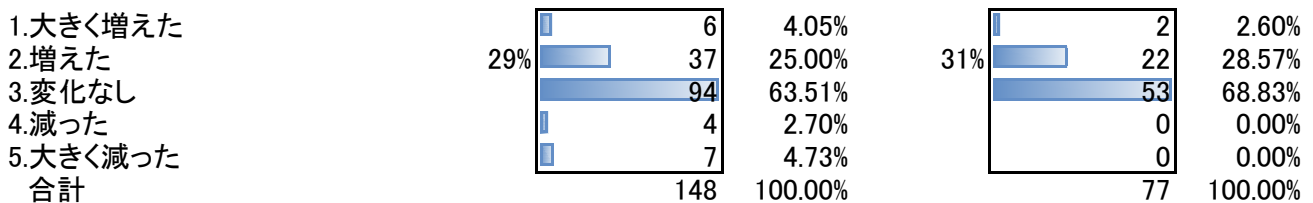
Q. コンピュータの操作能力



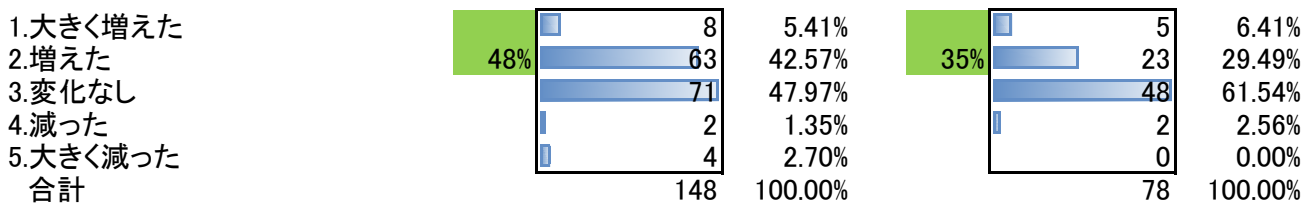
R. 時間を有効に利用する能力



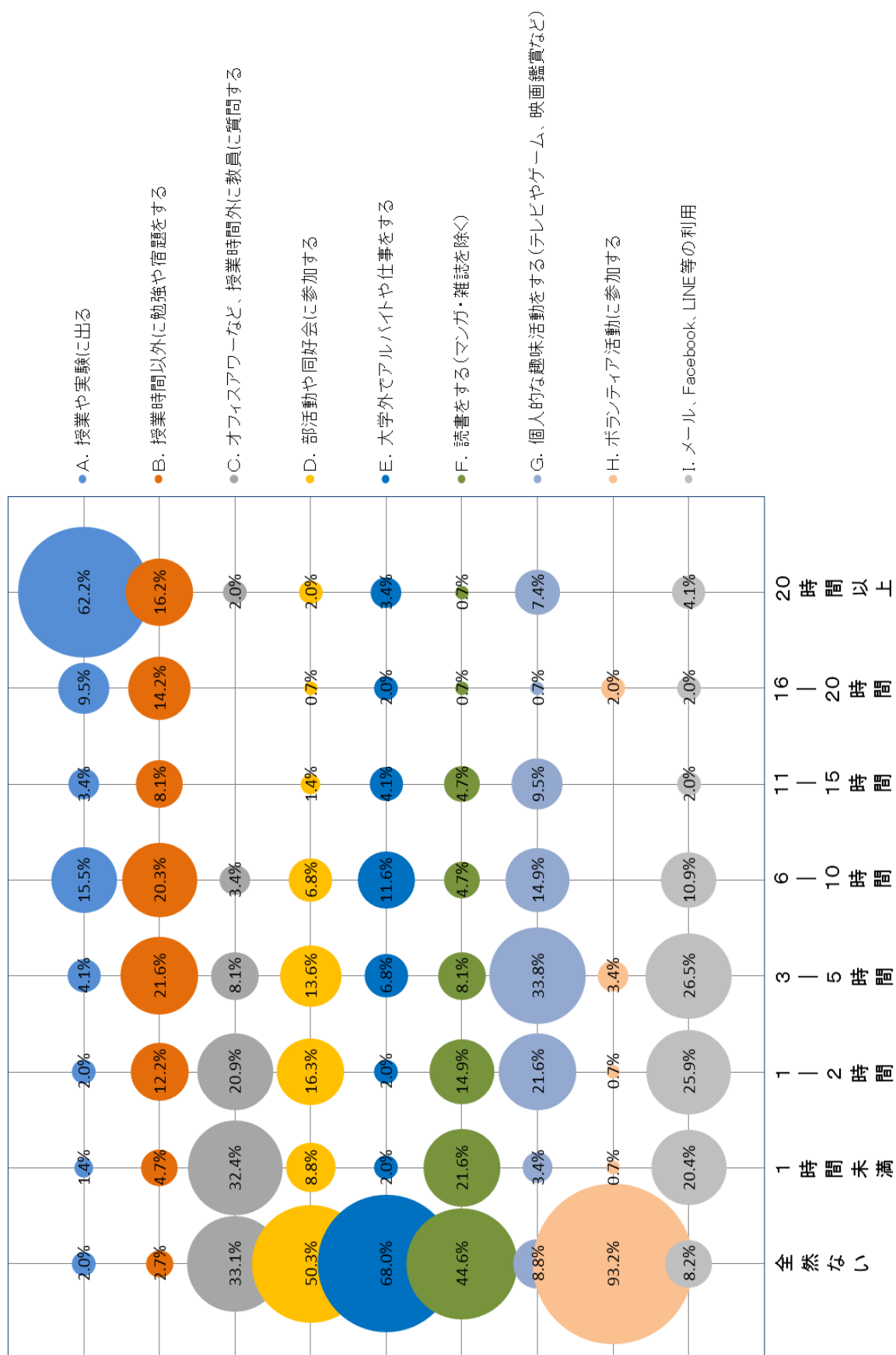
S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



H28（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか【薬学部】



平成28年度学修行動調査

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

回答1.1



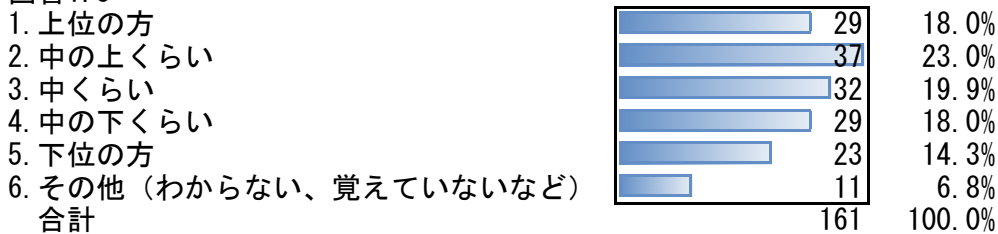
(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。

回答1.2



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

回答1.3



(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

A. 授業中、質問をした



B. 自分の意見を論理的に主張した



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した



D. 自発的に作文の練習をした



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した



F. 困難なことにあえて挑戦した



G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読んだ



I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



J. 自分の失敗から学んだ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



2. 大学における学習状況について（全学部）

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環でボランティア活動をする



E. 学生自身が文献や資料を調べる



F. 定期的に小テストやレポートが課される



G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



H. 学生が自分の考えや研究を発表する



I. 授業中に学生同士が議論をする



J. 授業で検討するテーマを学生が設定する



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



L. 取りたい授業を履修登録できなかった



M. 出席することが重視される



N. SA・TA(上級生や大学院生の授業補助者)から補助を受ける



(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



G. 授業を欠席した



H. 授業に遅刻した



I. 授業をつまらなく感じた



J. 授業中に居眠りをした



K. 教員の研究プロジェクトに参加した



L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした



N. 教員に親近感を感じた



(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A. 授業や実験に出る



B. 授業時間以外に勉強や宿題をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. 大学外でアルバイトや仕事をする



F. 読書をする(マンガ・雑誌を除く)



G. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



H. ボランティア活動に参加する



I. メール、Facebook、LINE等の利用



J. 平日(授業のある日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



K. 休日(授業のない日)に予習・復習を行う主な時間帯(あてはまるものをすべて選んでください。)



(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力

1.大きく増えた	24	6.88%
2.増えた	124	35.53%
3.変化なし	177	50.72%
4.減った	16	4.58%
5.大きく減った	8	2.29%
合計	349	100.00%

G. 人間関係を構築する能力

1.大きく増えた	45	12.86%
2.増えた	173	49.43%
3.変化なし	108	30.86%
4.減った	16	4.57%
5.大きく減った	8	2.29%
合計	350	100.00%

H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

1.大きく増えた	50	14.25%
2.増えた	193	54.99%
3.変化なし	87	24.79%
4.減った	16	4.56%
5.大きく減った	5	1.42%
合計	351	100.00%

I. 異文化の人々と協力する能力

1.大きく増えた	10	2.85%
2.増えた	70	19.94%
3.変化なし	242	68.95%
4.減った	20	5.70%
5.大きく減った	9	2.56%
合計	351	100.00%

J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

1.大きく増えた	8	2.30%
2.増えた	128	36.78%
3.変化なし	193	55.46%
4.減った	13	3.74%
5.大きく減った	6	1.72%
合計	348	100.00%

K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力

1.大きく増えた	27	7.71%
2.増えた	123	35.14%
3.変化なし	165	47.14%
4.減った	24	6.86%
5.大きく減った	11	3.14%
合計	350	100.00%

Q. コンピュータの操作能力

1.大きく増えた	42	12.03%
2.増えた	188	53.87%
3.変化なし	105	30.09%
4.減った	8	2.29%
5.大きく減った	6	1.72%
合計	349	100.00%

R. 時間を有効に利用する能力

1.大きく増えた	30	8.65%
2.増えた	175	50.43%
3.変化なし	120	34.58%
4.減った	19	5.48%
5.大きく減った	3	0.86%
合計	347	100.00%

S. グローバルな問題の理解

1.大きく増えた	10	2.86%
2.増えた	104	29.71%
3.変化なし	221	63.14%
4.減った	7	2.00%
5.大きく減った	8	2.29%
合計	350	100.00%

T. 卒業後に就職するための準備の程度

1.大きく増えた	30	8.55%
2.増えた	153	43.59%
3.変化なし	156	44.44%
4.減った	7	1.99%
5.大きく減った	5	1.42%
合計	351	100.00%

3. 大学の学びに関する満足度について（全学部）

(1) あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

A. 全学共通教育の授業



B. 初年次生を対象とした教育プログラム内容 (フレッシュャーズセミナー1・2、イグナイト教育1A・1Bなど)



C. 授業の全体の質



D. 日常生活と授業内容との関連



E. 将来の仕事と授業内容の結びつき



F. 教員と話をする機会



G. 個別の学習指導や援助(履修相談など)



H. 他の学生と話をする機会



I. 大学の中での学生同士の一体感



J. 多様な考え方を認めあう雰囲気



K. 大学での経験全般について



L. 1つの授業を履修する学生数



(2) あなたは、本学の施設や学生支援制度にどの程度満足していますか。

A. 図書館・学習センター(蔵書や学習スペースなど)



B. 実験室の設備や器具



C. コンピュータの施設や設備



D. コンピュータの訓練や援助



E. インターネットの使いやすさ



F. 奨学金など学費援助の制度



G. 健康保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



H. 体育施設



I. キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)

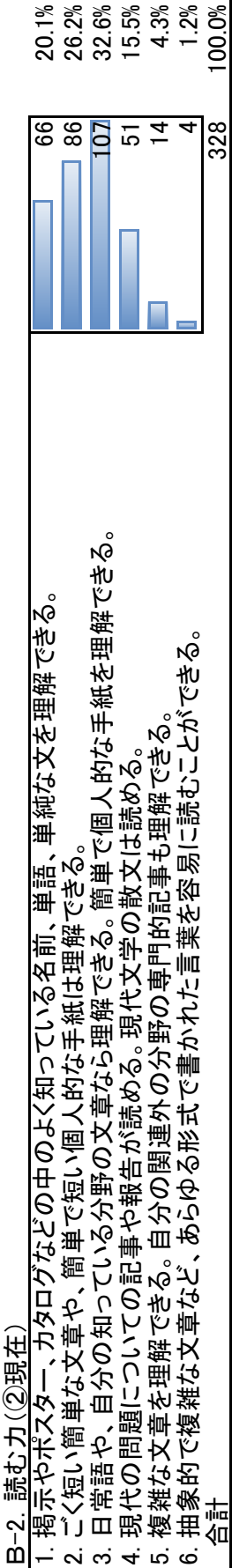
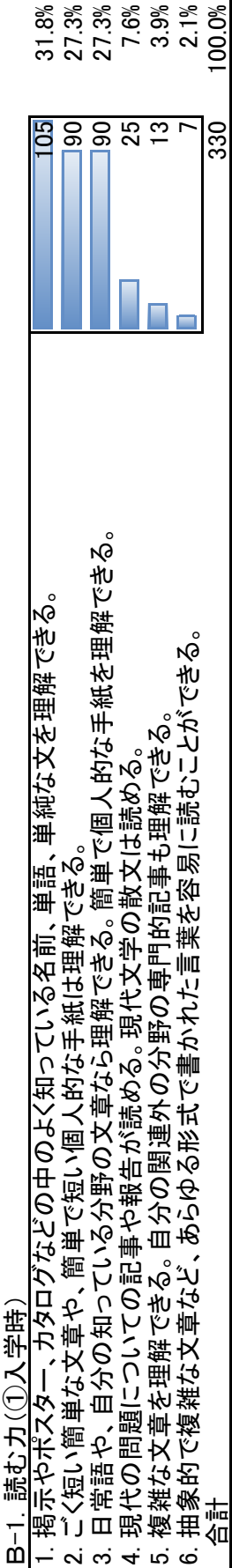
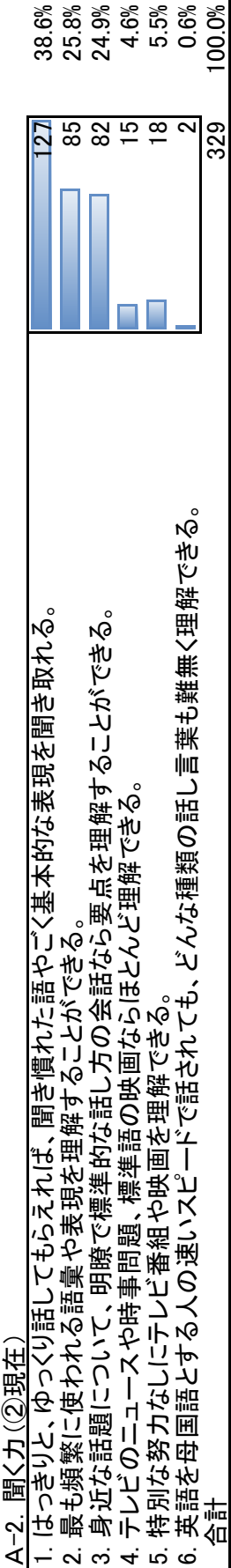
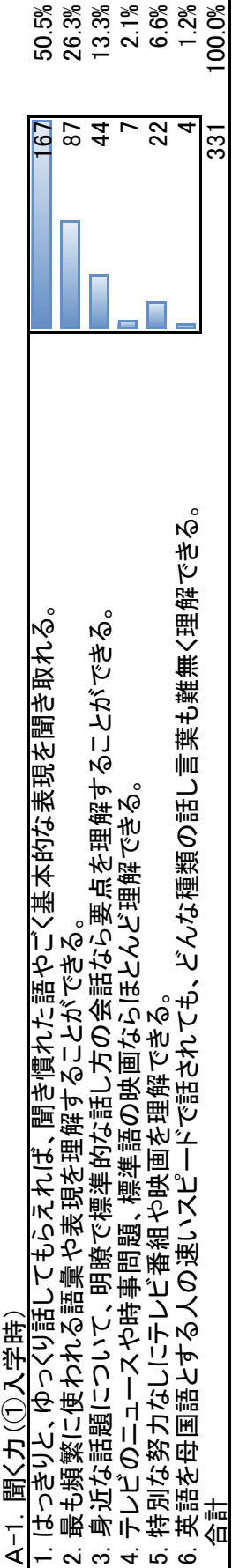


J. 厚生館施設



4. 英語の学習状況について（全学部）

(1) あなたの英語能力をA. 聞く力、B. 読む力、C. 会話力、D. 表現力、E. 書く力の5つの観点から自己評価した場合に、到達していると思うレベルを、①入学時と②現在それぞれについて1つずつ答えてください。



C-1. 会話力(①入学時)		
1. 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	146	44.4%
2. 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	68	20.7%
3. 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	42	12.8%
4. 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話が話ができる。	28	8.5%
5. 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話が話ができる。	21	6.4%
6. 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	16	4.9%
7. 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	2.1%
8. いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	1	0.3%
合計	329	100.0%
C-2. 会話力(②現在)		
1. 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	97	29.6%
2. 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	75	22.9%
3. 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	64	19.5%
4. 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話が話ができる。	40	12.2%
5. 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話が話ができる。	28	8.5%
6. 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	9	2.7%
7. 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	12	3.7%
8. いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	3	0.9%
合計	328	100.0%
D-1. 表現力(①入学時)		
1. 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	156	47.6%
2. 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	51	15.5%
3. 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	81	24.7%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	29	8.8%
5. 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	8	2.4%
6. 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	3	0.9%
合計	328	100.0%
D-2. 表現力(②現在)		
1. 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	117	36.2%
2. 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	58	18.0%
3. 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	91	28.2%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	38	11.8%
5. 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	13	4.0%
6. 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6	1.9%
合計	323	100.0%

E-1. 書く力(①入学時)

1. お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	128	38.9%
2. 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	99	30.1%
3. 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	63	19.1%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	29	8.8%
5. 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	7	2.1%
6. 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	3	0.9%
合計	329	100.0%

E-2. 書く力(②現在)

1. お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	100	30.5%
2. 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	100	30.5%
3. 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	70	21.3%
4. 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	38	11.6%
5. 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	13	4.0%
6. 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	7	2.1%
合計	328	100.0%

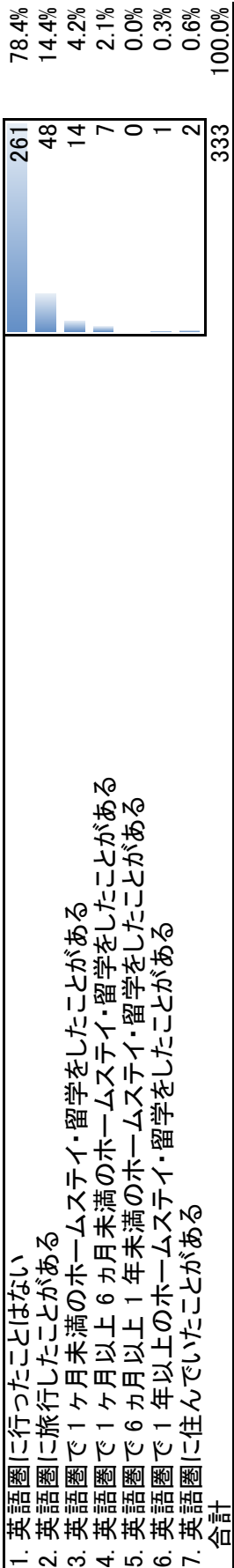
(2) あなたは英語が好きですか。

1. 好き	43	13.1%
2. どちらかといえば好き	70	21.3%
3. 好きでも嫌いでもない	91	27.7%
4. どちらかといえば嫌い	55	16.8%
5. 嫌い	69	21.0%
合計	328	100.0%

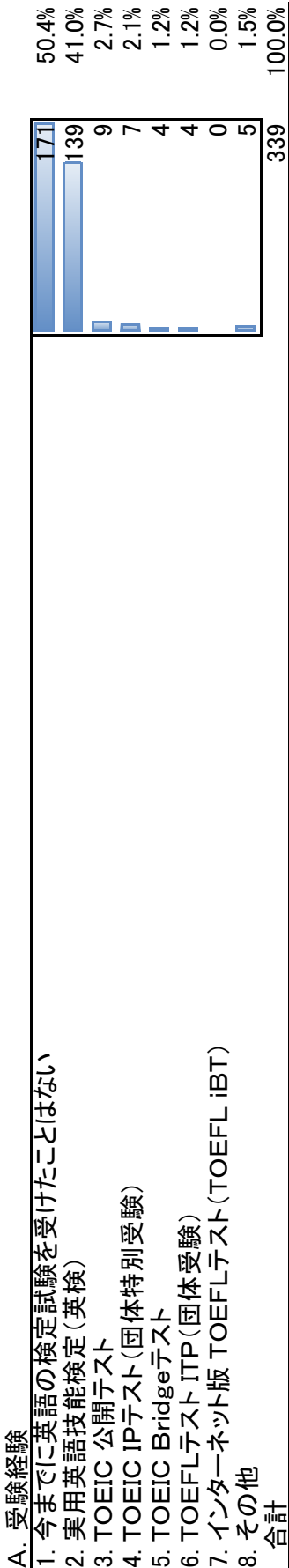
(3) あなたは英語が得意ですか。

1. とても得意	4	1.2%
2. どちらかといえば得意	36	10.9%
3. 得意でも苦手でもない	79	24.0%
4. どちらかといえば苦手	97	29.5%
5. とても苦手	113	34.3%
合計	329	100.0%

(4) アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験についておうかがいします。
あてはまるものをすべて選んでください。



(5) あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。あてはまるものをすべて選び、
それぞれの試験について取得したスコアまたは級のなかで最も高いものを教えてください。



B. 取得したスコアまたは級のなかで最も高いもの

